



桑野小学校のシンボル 「元氣くん」

「元氣くん」とは、桑野小学校の校庭に植えられている大きなイチヨウの木の呼称である。およそ10年前、弱りかけたイチヨウ

に元氣になったほしいと子どもたちが名付けた。



桑野町
西崎 憲志さん

は、明治8年、近くの片山氏宅を借りて創立され、明治35年に現在の場所に移った。「元氣くん」はこの時に植えられ、樹齢は約110年になる。戦時中は食糧が足りず、校庭を耕してイモを作っていた時期もあった。時代とともに移り変わる校庭の情景をじつと見守ってきた。

地元の人たちは、そんな「元氣くん」を地域のシンボルとしてこよなく愛してきた。戦地から帰った人や都会へ出て

いて久しぶりに学校に立ち寄った人は、その懐かしさに涙したという。

長老から「元氣くん」の生い立ちを聞いている学校の先生や地域のボランティアは、現在もこの木をととても大切に育てている。

最近ではこんなことがあった。地域のボランティアが「元氣くん」の剪定作業をしたとき、低学年の子ども数人が近寄って来て、「なんで枝を切るの？かわいそうだからやめて」と泣き出した。作業をしていた人が「これは切っているのではなくて、散髪しているのだよ」と諭すと、納得した子どもたちは「ありがとう」と言って、うれしそうに教室へと走って行った。いかに「元氣くん」が大事にされているかが分かる。

これからも、この名のおお「元氣」に育ててほしいと思っている。

次は、阿瀬比町の前田敏武さんをお願いします。

市民文芸

短歌

阿南市文化祭短歌大会選

鹿島寿美子

原笥の捨て場所のない日本の千年のちも蝉時雨あれ

林 満子

東京の息子らへ想いをはせる日もありて八十路の歩数計見る

小熊 節子

雨傘にきららぎの雨はららぎてラッパ水仙イエローに響く

中原 一

月のさまに浮かせし彼の日かの日よりだんごうかすが習ひとなりき

香川ミヨ子

立秋過ぎ炎暑続くも雨降らず汗を拭き拭き稲田に水張る

徳川 明美

吾が耳を満たす鈴虫キリギリス闇の底より沸点の声

棚野 久子

幸せと思う一瞬何気なくごはんの炊ける匂いするとき

俳句

阿南市俳句連合会選

清原 眞治

特急の通り過ぎたり花の駅

アロハ着て椰子の葉陰やクラブ振る

藤崎 稔

病院の歩行訓練花を見に

河野千枝子

初蝶の白を操る風のあり

西岡 典子

今日ありて愁を秘めて花に酔ふ

久田 美恵

花明り降り客一人無人駅

森岡 美風

開創の節目にぎわうツアー遍路

高尾 房枝

遅れじと嶺を越えたり巢立鳥

柏 孝則

畦道にたんぼぼ並ぶ丈合わせ

水口 明美

車窓より歓声あげる桜かな

池内 明美

川柳

阿南川柳会 高木旬笑選

欲しいのは若さをくれる玉手箱

原 公美子

山折りも谷折りもある人生譜

野村 敏子

余裕こそ心育てる良い時間

持木 寿栄

七十路坂見上げてのぼる途さぐる

橋本 征介

長生きはしたくはないと薬飲む

岡本 福笑